

2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】 作成: 2025 年 6 月 19 日

施策番号	施 策 名	有効な土地利用の推進	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり		
			政策名	快適な都市環境づくりの推進		
4-2-1	主 管 課	都市経営課	課長名	佐藤季之	内 線	418
	施策関係課	政策推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対 象		意 図				結 果		
市街地の空き地や未利用地を減らし、有効な土地利用を進めます。		町全域のうち主に都市計画区域		市街化区域内の空き地や未利用地を減らし、人口動態に適切に対応した土地利用を図る				計画的な土地利用による自然と調和した快適なまち		
成果指標		説 明	単 位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
①	市街化区域内の住宅戸数	町税務課データより	戸	6,958 (R3)	7,017	7,024			7,140	
②	「まち並が整っていて機能的なまち」と思う町民の割合	住民意識調査	%	62.1 (R3)	58.2	66.0			80.0	
③										
④										
成果指標設定の考え方		①既成市街地の再編状況を把握するため、住宅戸数を指標に設定し、年平均30戸の増加を見込み、目標値を目指すもの。 ②まち並みや機能的なまちに対する町民の満足度を向上させるため、指標に設定し、段階的に向上させ、目標値を目指すもの。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	17,821	25,320	29,454		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察							
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定される理由	① 成果は向上⇒民間ベースで増加傾向 ② 前年と比べて増加				
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった						
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した						
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠(理由)	① 住宅に関する補助・奨励制度の周知による利用促進を図り、目標を達成できる。 ② 都市計画マスタープラン等を推進することで、目標達成を目指す。				
	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能						
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい						
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括							
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町有財産(土地・建物)管理事務	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業					
	都市計画変更・決定事務						
	開発行為・許可事務						
③事務事業全体の振り返り(総括)	●工業系土地利用の拡大 →新たな市街地形成について、農林業との調整を図りながら関係機関と協議を進めている。 ●住宅系土地利用の維持 →民間の宅地分譲により、子育て世帯を中心に住宅着工数を維持している。また、公有地を売却し有効な土地利用につなげている。 ●都市計画制度の適正な運用 →農村滞在型余暇活動機能整備計画(グリーンツーリズム)を策定し、市街化調整区域での有効な土地利用を図っている。						
	(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課 評価	工業系土地利用の拡大は、協議が進んでいる。住宅系土地利用については、民間ベースでの住宅新築や改築が進んでいる。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した      B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した      C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した  
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した      E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのような人口増加を前提とした都市づくりを目指す状況ではなく、既成市街地の再構築などにより、都市構造の再編に取り組む必要がある。このため茅室町立地適正化計画を策定し、町民の暮らしを支える公共施設などの適正配置や交通環境の整備を進める必要がある。</li> </ul> <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市機能の集約化及び中心市街地の空洞化防止策を推進し、高齢者や子育て世代が安心して生活できる利便性が高い機能的な街並みの整備、公共施設等の効果的な施設配置、町有未利用地の活用方針により、有効な土地利用を引き続き進める。</li> </ul>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画市街化調整区域での土地利用に関する相談がある。</li> <li>公共用地(普通財産)の利活用や購入希望がある。</li> </ul>

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<p>●適正かつ効果的な公共施設などの配置</p> <p>利用者の利便性、地域間のバランス、町全体のゾーニング、まちなか再生の取り組み、既存施設の改修及び更新などを勘案し公共施設配置構想により進行管理する。</p> <p>●工業系土地利用の拡大</p> <p>新たな市街地として農林業との調整を図りながら、拡大に向けて関係機関と協議を進める。</p> <p>●住宅系土地利用の維持</p> <p>現在の住環境を維持し、公共施設集約や公営住宅団地の用途廃止に伴う町有地は、住宅地として土地利用を進める。</p> <p>●都市計画制度などの適正な運用</p> <p>都市計画市街化調整区域は、市街化を抑制する区域として開発が規制されているが、必要な施設については開発許可制度の適正な運用を進める。</p>
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した</p>					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き地が有効に活用され、子育て世代が住みたくなるような街づくりをしてほしい</li> <li>機能的なまちとは何なのかを探りながら進めるのがよいのかなと思った。</li> <li>工業系土地利用について、タイムリーに実施していただきたい。</li> <li>工業団地は農業との連携もしながら、拡大に向けしっかりと進めてほしい。</li> <li>建築費用の高騰のため、住宅戸数の目標達成は厳しいと思う。建築費用や取り壊し費用の助成等の検討を。</li> </ul>	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した</p>					